

いにしへの鍛冶仕事の里 飯館村で刃物をつくる

刃物の館やすらぎ工房(株式会社二瓶刃物)

二瓶貴大さん(大倉)は、刃物の製造・販売・修理を行う「刃物の館やすらぎ工房」(株式会社二瓶刃物)の4代目。親方でもある父の信男さんと共に、刃物工場の適地を探して飯館村と出会い、飯館工場は、旧草野幼稚園を改修して令和元年に誕生しました。

園舎のホールだった二室に、大型の機械類が並びます。貴大さんは、日本の伝統的な刃物づくりの技術を学び、全ての工程をまかなう一貫生産で、オーダーメイドを含むさまざまな刃物を製造しています。プロの道具から一般家庭向けの刃物まで。販路は海外にも大きく広がっています。「ありがたいことにお客様からはよい刃物と評価をいただくのですが、修行が進むにつ



炉の温度は約1200度。軟鉄と銅を融合する鍛冶の作業。澄んだ打音が響きます。



れて自身に要求するレベルも上がっていくので、仕事に向き合う気持ちは1年目と変わらないです」と真摯なまなざし。

この夏には「山の向こうから鉄を打つ音が聞こえる」と題したイベントを開催します。7月20日の講演(事前予約制)に始まり11月まで続く企画です。

8月3・4日、2日連続のイベントでは、3日に、古代の炉を復元して鉄をつくりその鉄からさまざまな道具をつくり出す工程を公開します。「1200年前の飯館を舞台に、当時の鍛冶屋の仕事を再現します。この地に根ざす歴史や誇りを、村の人達と共有したい」。元地域おこ



焼入れ、研ぎ、そして名入れまで、までいな仕事を重ねて作り上げられる美しい刃物。



刃物の館 やすらぎ工房

飯館村草野字大師堂113-37

☎ 0244-42-0333

(店舗) 福島市三河北町16-6

☎ 024-533-0418

HPは「刃物の館やすらぎ工房」で検索



Instagram

企業雇用型協力隊(P26参照)を募集中。
資格や経験は不問です。

「ものづくりが好きというのが根底にある」と貴大さん。刀鍛冶の資格試験の準備も進んでいます。

百歳賀寿 佐藤フミヨさん(伊丹沢)100歳おめでとうございます



着物姿でご家族や出席者と記念撮影。

6月23日、100歳の誕生日に合わせて、佐藤フミヨさんの百歳賀寿がいいたてホームで行われ、県や村、飯館村社会福祉協議会などから、祝状や記念品が贈られました。

佐藤さんは、大正13年生まれ。若い頃は野菜をつくり、二枚橋の直売所でおしゃべりをしながら販売することが楽しかったそうです。ますますのご健康とご長寿をお祈りします。

村民で100歳を迎えられた方は佐藤さんが45人目。現在100歳以上の方は佐藤さんを含め8人いらっしゃいます。



ホームでもお祝いの会が開かれました。

厨房スタッフ手作りの誕生ケーキ

高野和幸さん 瑞宝単光章を受章

高野和幸さん(長泥)が、専門工事業務功勞により瑞宝単光章を受章しました。

高野さんは、有限会社福島工務店(旧佐藤建業)で、43年間にわたって型枠工事に携わり、現在は工事部長を務めています。さまざまな資格を取得し実務経験を重ねながら、公共・民間施設の建設工事で高精度の技術を発揮してきました。また、職長として一線で活躍しながら若手人材の



指導にあたり、確かな仕事と実直な人柄から、会社はもと

より取引先からの信頼も厚く、業界の推薦を受け今回の受章に至りました。

勲章と勲記は、5月に国土交通省にて授与され、妻ののぞみさんと共に、皇居で天皇陛下に拝謁しました。

「周りの皆さんに祝福されて、ようやく実感が湧いてきました」と高野さん。「受章に際しても会社に変にお世話になりました」と周囲への感謝を語りました。今後も現役で仕事を続けていくそうです。



受章当日の記念写真。